

■山階芳麿 鳥類学者。{山階鳥類研究所}を開設し、鳥類全てに和名つけ、日本の鳥類学研究、自然保護に指導的役割。

やましなよしまる

1777/国産化・1900 = 生、山階宮菊麿王の第2王子。

生まれつき、病弱であった。

日露戦争終・1905 = 5歳：学習院の幼稚園に入る。幼いころから鳥類に関心をもち、
満鉄発足・・1906 = 6歳：誕生日に求めて鳥の標本を貰い、以後、鳥のコレクションが始まる。
韓国反日暴動1907 = 7歳：学習院初等科に進む。
アヲヰ 創刊・1908 = 8歳：当時海軍中佐をしていた父が死去。
伊藤博文暗殺1909 = 9歳：

明治天皇没・1912 = 12歳：この年、日本鳥学会が発足している。
大正政変・・1913 = 13歳：学習院中等科に進む。
第一次大戦始1914 = 14歳：軍人になることが求められる家柄であったため、陸軍幼年学校に入る。
21ヶ条要求・1915 = 15歳：この年、日本鳥学会が{鳥}を創刊、以後愛読する。

この間、教官から標本のつくり方なども学ぶ。

本格政党内閣1918 = 18歳：
大正11年条約・1919 = 19歳：陸軍幼年学校を卒業し、陸軍士官学校に入学するが、相変わらず病気がちで休むことが多かった。
大暴落・・1920 = 20歳：臣籍降下して山階侯爵となる。
原敬首相暗殺1921 = 21歳：士官学校を卒業し、砲兵将校となる。井上恒也を知る。
病弱で現場には向かないということから、
関東大震災・1923 = 23歳：陸軍砲工学校普通科でさらに勉学することになった。
護憲三派圧勝1924 = 24歳：高等科に進学して、卒業。初の論文「静岡県東部の鳥類」を{鳥}に発表。
治安維持法・1925 = 25歳：酒井寿賀子と結婚。妻寿賀子は、絵の素養があり、鳥の観察スケッチなど生涯にわたって、彼を支えた。
円本時代始・1926 = 26歳：その後も病氣療養が続き技術本部勤務となる。外地の鳥類研究を志し、樺太の狩猟家折居彪二郎を知り、
金融恐慌・・1927 = 27歳：その成果を「日本領南樺太産鳥類の採集物について」にまとめる。動物学研究への志望もだしがたく、
共産党事件・1928 = 28歳：陸軍中尉を休職という形で退役し、
世界恐慌・・1929 = 29歳：東京大学理学部動物学科選科に転じ、本格的に鳥類学を始める。
アホウドリの乱獲阻止などを訴える。
満州事変・・1931 = 31歳：修了。
五一五事件・1932 = 32歳：*私邸に鳥類標本館を建て、専任の研究員や採集人を置いて、研究を開始。
国際連盟脱退1933 = 33歳：成果を「日本の鳥類とその生態」として、逐次刊行し始め、評判となる。

二二六事件・1936 = 36歳：以後、台湾、ミクロネシア、サハリンから標本を採集、分類・形態・分布などの研究に励み、発展。
日中戦争始・1937 = 37歳：この年、アホウドリ絶滅が伝えられた。

日米開戦・・1941 = 41歳：
・・・・・1942 = 42歳：*財団法人を設立、標本館を山階鳥類研究所にして公開、在野の鳥類研究者に大きな便宜をもたらした。とくに中西悟堂と交流、{日本野鳥の会}に場所を提供し、のちの発展に寄与。理学博士となる。

敗戦・・・・1945 = 45歳：*東京大空襲では、自邸も研究所の本館も失ったが、必死になって守った標本は無事であった。戦争直後から、GHQが山階博士をキーマンとして、日本政府の鳥類保護政策の整備を推進することになり、中西悟堂と協同して、罾網や空気銃の使用禁止、「日本鳥類保護連盟」の設立など、鳥獣保護制度の確立に奔走した。
極東裁判決・1948 = 48歳：日本鳥類保護連盟会長に就任。「細胞学にもとづく動物の分類法」を出版。バード・ウィークを制定。

朝鮮戦争始・1950 = 50歳：日本遺伝学会賞。
独立回復・・1951 = 51歳：研究所が国の資金援助が受けられるようになり、戦後の苦境を脱する。アホウドリを発見し、保護育成。

自衛隊発足・1954 = 54歳：
55年体制始・1955 = 55歳：アホウドリが国の天然記念物に指定された。

なべ底不況・1957 = 57歳：日本鳥類保護連盟を財団法人とし、理事長となる。
イスタラマ・1958 = 58歳：国際会議出席のため、初めてヨーロッパ旅行。
安保闘争・・1960 = 60歳：各国から要請されて、奔走し、
日本で国際鳥類保護会議の総会を開催を実現し、アジアでの保護政策の宣言を発表。
以後、外国旅行が頻繁となる。

TV宇宙中継始1963 = 63歳：

いざなぎ景気1966 = 66歳：長年ともに活動してきた妻をがんで失う。

霞ヶ関ビル・1968 = 68歳：日本で第1回日米わたり鳥会議を開催、
全共闘ビーク・1969 = 69歳：第2回の会議で「日米わたり鳥条約」を締結。

ドミノック・・1971 = 71歳：この年、環境庁が発足、
日中国交回復1972 = 72歳：全国に展開してゆく「鳥類観測ステーション」に協力。
石油ショック1973 = 73歳：日本政府の批准には至らなかったが、ソ連とも「日ソわたり鳥条約」を締結。
角栄金脈辞任1974 = 74歳：「日豪わたり鳥条約」を締結。

JALハイジャック・1977 = 77歳：鳥類学者のノーベル賞といわれるデラクル賞を世界の五人目で受賞。
成田衝突・・1978 = 78歳：オランダからゴールデン・アーク勲章。

・・・・・1981 = 81歳：沖縄で新種の鳥を発見、ヤンバルクイナと命名(日本で60年ぶりの新種発見)。研究所を我孫子に移転。
ドイツ・ユラント・1983 = 82歳：*世界のすべての鳥に和名をつける仕事を完了して、
昭和天皇没・1989 = 89歳：肺炎で 没した。
国際鳥類保護会議副会長、日本鳥学会名誉会頭、環境庁自然環境保全委員をはじめ内外の多数の公共機関、学会の長や委員を歴任し、日本における鳥類学研究、自然保護の体制づくりに指導的役割を果たした。

PHP「野鳥と生きた80年」、平凡社百科事典、「目でみる日本人物百科」、